

## 研修報告書 No.20

所 属： 東邦大学医療センター大橋病院

研修先： 本山町立国保嶺北中央病院 本山町立汗見川へき地診療所  
いの町立国保長沢診療所 大川村国保小松診療所

私は、2019年3月に国保嶺北中央病院を中心に、町立汗見川診療所、大川村国保小松診療所、いの町国保長沢診療所にて研修をさせていただきました。その内容につきましてご報告させていただきます。

研修の中心となりました嶺北中央病院では、入院患者の診察をはじめとして外来の見学・診察、近隣の介護施設・障がい者支援施設や家庭への訪問診療、病院でのリハビリのカンファレンス、放射線をはじめとした検査機器の取り扱い等について研修させていただきました。また、汗見川診療所・小松診療所・長沢診療所では、外来の見学、診察を研修させていただくと同時に地域での医療の実際を伺うことができました。

この嶺北地域一帯には、一般病床がある病院は嶺北中央病院と他一つしかなく、ほかの病院は医療療養病床・介護療養病床等があるのみとなっており、地域の医療の要となっていることは間違いありません。しかし、嶺北中央病院は手術室が数年前から稼働しておらず、手術が必要な場合や緊急で高度な医療が必要な疾患には市内の病院へと搬送しての治療が必要となります。天候、時間などに問題なければドクターヘリによる搬送も可能ですが、できなければ車での搬送となり40～50分の移動時間をかけることとなってしまいます。山間で病院が少ない地域ということの影響とは思われますが、実際に難しい実情を知りました。

来院される患者さんはやはり高齢者の方が多く、80代、90代の方が多くいらっしゃいました。しかしながら、自分が今まで今まで見てきた高齢者の方々よりも元気に活動されている方が多いように感じられました。日ごろ運動をしなければならぬ機会が多かった影響と考えていますが、高齢者の皆さんが元気に過ごされており健康寿命が長い地域であるように感じました。

印象的な症例としてはアルコール性肝硬変の一例があります。食欲不振による全身状態の悪化から救急車で来院されたこの方は、普段病院に通院しておらず、来院された際にはすでに腹水もあり大変状態が悪くなっていました。専門医の診察が必要との判断で翌日市内の病院へ転院搬送となりました。搬送に同乗しましたが、このときの搬送にも50分を必要とし、緊急性のないこの方では問題にはなりませんでしたが、場合によっては時間の問題は大きく関わってくると感じました。また、道路の路面状況と曲がりくねった道の影響で揺れも強く、振動で状態の悪化もあり得るなどのことが身をもって感じられました。

内服加療を長期続けている方は、毎日・全日やっではないものの、近くに各診療所があることで、長距離の移動が困難な方でも無理なく通院できます。そして状態が重症に近づけ

ば地域の拠点となる嶺北中央病院などの病院を受診され場合によっては入院加療を受けま  
す。そして緊急性が高い方、重症で対応困難な方は市内の高度医療を提供可能な病院にて治  
療を受けてもらうという、それぞれの方に対して適切な医療を提供する医療が行われてい  
ると感じました。

今まで私は、地域医療という言葉に対して持っているイメージではその地域ごとで問題  
を解決できるようにしている状態を考えていましたが、それでは現状の医師の人数では足  
りなくなってしまいます。この地域は、高度医療を受けるには高知市内へ行く必要がありま  
すが、地域一つで完結させる必要はなく、より広い範囲で密接に連携して医療を行うこと  
で、より効率よく多くの人により良い医療を提供することができており、それが地域の方の健  
康を高めることにつながると感じました。さらにはアクセスの改善など連携を高めること  
など、医療だけでなく包括的に状態を改善させることが要になってくると感じました。

最後に今回の研修でお世話になった全職員の皆さまに感謝の意を表し、報告を終わらせ  
ていただきます。